

寄附講義の概要（新規）

1 寄附講義を置く組織の名称
筑波大学生命環境学群生物学類

2 寄附講義の名称
三菱 UFJ 環境財団寄附講義

3 寄附講義の概要

全学の学群学生を対象とした基礎科目「総合科目 III」において、生物学類が開設母体となり国際的な視点で質の高い環境教育を行うため、以下の講義および実習（研修を含む）等を開設する。

科目名	実施概要
① 「地球環境変動と地球規模課題の科学論」（講義）	総合科目Ⅲ（全学3・4年次対象） 1単位、春学期A Bモジュール、 金曜3時限（12：15－13：30）
② 「環境変動影響と持続可能社会構築の科学技術論」（講義）	総合科目Ⅲ（全学3・4年次対象） 1単単位、秋学期A Bモジュール、 金曜3時限（12：15－13：30）
③ 「生命環境科学実習A」 （実験室、フィールドセンターにおける実習）	総合科目Ⅲ（全学3・4年次対象） 1単位、春学期Cモジュール 集中
④ 「生命環境科学実習B」 （国内研修及び海外研修）	総合科目Ⅲ（全学3・4年次対象） 1単位、秋学期Cモジュール 集中
「科目外企画」 国際シンポジウム（英語） 国内シンポジウム（日本語） 公開フォーラム	受講生に参加を推奨する。企画運営に参画させ、環境研究・教育活動に関するマネジメント力を要請する。 グローバルな視点で自己の学問や専門の研究活動に取り組むための幅の広い視点を養成する。

4 寄附者の概要

寄付者：公益財団法人 三菱 UFJ 環境財団
(The Mitsubishi UFJ Environment Foundation)

設立：2003年（平成15年）4月1日

代表者等：理事長 沖原 隆宗（三菱東京 UFJ 銀行特別顧問）
常務理事 田中 洋一（事務局長）

事業内容：三菱UFJ環境財団は、三菱UFJフィナンシャル・グループの社会貢献活動および環境への取り組みの一翼を担う財団として、環境の保全及び環境教育を通じて公共の福祉の増進に寄与することを目的に、環境保全整備事業、環境教育事業、体験活動事業等の幅広い活動を行っています。

(1) 良好な自然環境及び自然とのふれあいの場の保全、創出のための緑化や環境

整備等環境の保全に関する事業

- (2) みどりの絵コンクール、環境講座、環境問題映画会等の開催や啓発図書の発行配布等環境の保全に関する思想、知識の普及及び啓発のための環境教育事業
- (3) 環境保全に関する体験の機会の提供を行う体験活動事業
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

所在地 : 〒105-0014 東京都港区芝 2-4-3 三菱東京 UFJ 銀行芝ビル 2階

沿革 : 当該財団は、昭和 46 年創設の(財)サンワみどり基金と昭和 50 年創設の(財)東海財団とが統合して、平成 15 年 4 月に UFJ 環境財団として発足。平成 18 年 4 月に三菱 UFJ 環境財団に名称変更し、平成 24 年 4 月には公益財団法人としてスタートした。

5 寄附講義の期間及び寄附予定額

助成期間	寄 附 予 定 額 (千円)			
	1 年目	2 年目	3 年目	合計
平成 30 年 4 月より 平成 33 年 3 月まで 計 3 年間	3,000	3,000	4,000	10,000

6 寄附金の使途:「三菱 UFJ 環境財団寄附講義」の開設及び実施にかかる費用

(TA 経費、海外、国内外からの外部外講師招聘費用、受講生の研修、実習、海外研修費用、実験用器具、試薬代など)

7 寄附講義を担当する大学教員予定者、職名、所属

(科目開設責任者)

生命環境学群生物学類長 (千葉智樹教授; H30 年 4 月より、和田洋教授 (予定))

(運営責任者)

- ・鈴木石根教授 生命環境系・学長補佐(環境)(総合コーディネーター)
- ・白岩善博特命教授・名誉教授(総合コーディネーター)
- ・石田健一郎教授 生命環境系(山岳科学研究センター長)
- ・稲葉一男教授 生命環境系(下田臨海実験センター長)

8 本寄附講義の必要性

干ばつ、異常気象、海面水位の上昇、感染症の拡大、生物種の絶滅などの世界各地での頻発など、気候変動を実感する災害や地球環境の変化事例が年々増大しています。

このような現状を踏まえ、2015 年(平成 27 年)12 月のパリでの COP21(国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議)では「パリ協定」が締結され、現在社会が抱える気候変動に対して全地球規模で取り組む合意がなされました。これは全地球レベルでの国際的気候変動対策における画期的な出来事とされております。さらに、国連は国際社会が抱える地球規模課題の解決を目標とし、Sustainable Developmental Goals (SDGs)を設定し、国際的な枠組みで具体的な環境対策に取り組むよう促しています。

大学で高等教育を受ける全ての学生は社会に貢献する義務を負い、日本人学生か留学生かを問わず、このような地球規模課題に対して無関心でいることはできません。そして、未来の地

球環境保全に対する科学的知見の集積に寄与し、その理解を進め、それを基盤に環境課題に立ち向かっていく義務を有することは論を待たないものと考えられます。

このような現状を考えると、現代の国際社会が直面する地球規模課題・問題の現状の本質に関する科学的理解やその解決策につながる学術的方策を意識しながら日々の学術活動に従事する必要があるという高い意識の構築を促す教育は不可欠です。

本寄附講義では、三菱 UFJ 環境財団の大学環境教育助成を活用し、国際的に通用する質の高い環境教育を受講生に提供する絶好の機会であると捉えています。そのため、地球環境問題に対して新たな視点を導入して講義内容を精査し、特別の寄附講義実行委員会を組織して授業を展開することを企画したところであり、その大学教育における重要性和必要性は多大なものであると自負しております。

そのような視点に立って、本寄附講義において「環境教育のモデルケース」を構築し、その教育モデルの効果を実証することによって、我が国の大学教育の質の向上を実現することは大きな意義があり、本寄附講義の最大の必要性でもあると考えるものです。

9 実施計画等 別紙のとおり